

# 遊美

- 1 菊池 三郎さんの作品と  
作品についての言葉
- 2 新館長のご挨拶
- 3 美術鑑賞旅行
- 4 作家探訪 磯崎 俊光先生
- 5 美に遊ぶ
- 6 学芸員に聞く
- 7 理事会・代議員会報告  
会員のためのギャラリートーク
- 8 デッサン講習会・お知らせ  
あとがき



菊池三郎 「幽谷の秋」

2014年/油彩・カンヴァス/F10号/2018年友の会会員作品展

この風景に出会ってから、すでに10年が過ぎました。ある団体旅行の一員として訪れた、晩秋の蓼科高原・白樺湖近くの風景です。川霧が薄れゆく中の溪流がとても印象的で、朝食もそこそこに出発間際まで、夢中でスケッチし、カメラに収めた記憶が鮮明に残っています。

帰宅後、すぐ制作に取り掛かりましたが、素人の悲しさ、なかなかイメージどおりに描けず、県北の溪流沿いや福島の間山にも足を運んで仕上げた、苦

心の1枚となりました。

友の会には古くからお世話になり、会が主催する絵画鑑賞会や絵画講座などに参加して、絵を描く楽しさを実感し、又同好の友人達も増えました。

絵を描く人達も高齢化し、昨年度の県芸術祭洋画部門の入選者の7割以上が70歳以上とのこと、自分もまだまだ老け込むでもなし、下手な絵を楽しんでゆきたいと思うこの頃です。

(常陸大宮市在住)

## 新館長のご挨拶

### 茨城県近代美術館のモネとロダン： 着任のご挨拶にかえて

茨城県近代美術館館長 あらやしき とおる  
荒屋鋪 透



尾崎正明前館長を引き継いで、この4月に着任して間もない6月の「ボランティア総会」での館長講話にかさなるのですが、美術館の作品解説と同時に私の研究テーマの紹介になると考え、標記の内容をご挨拶にかえました。

茨城県近代美術館の入口を入るとすぐ見える彫刻、ロダン作《三つの影》の少し小型の原型（石膏）が、所蔵作品の展示室に飾られているモネ作《ポール＝ドモワの洞窟》と、同じ展覧会に出品されたことがあります。

パリにエッフェル塔が建てられた1889年の『モネ、ロダン合同展』です。この『合同展』（2人展）に出品したモネの145点中に《ポール＝ドモワの洞窟》がありました。ロダンは有名な《カレーの市民》など36点を出品、《三つの影》は石膏原型で、茨城のものより小さいサイズですが、大作《地獄の門》の頂点にのせる人体像だからです。ロダンの出品作の多くは石膏原型でした。その理由は当時、ロダンが《地獄の門》を政府から依頼されていたものの、まだ完成できないでいたからです。36点には《地獄の門》習作類が含まれていました。

しかしロダンとモネにとってこの『合同展』は実り豊かなものでした。なぜなら同

じ会場で2人の見た自分の彫刻と絵画は、いつも仕事場で制作しながら見ている自作とは違って見えたからです。ロダンはそこから大作《地獄の門》の部分習作を、各々拡大・縮小しながら独立した彫刻に仕上げていきます。有名な《考える人》もその1点ですが、当館の《三つの影》が、東京・上野の国立西洋美術館前庭にある《地獄の門》頂上の人体像より、大きな彫刻であるのはそうした理由からです。

モネの場合はこの『合同展』以後、どう変化したのでしょうか。それはテーマをシリーズで描く連作の構想です。モネ晩年の傑作に『睡蓮の連作』と、その睡蓮を壁面にした有名なパリのオランジュリー美術館の楕円形の部屋がありますが、同じテーマを時間や天候の状況を変えて描く、この連作の構想は『合同展』から強くモネが意識して試行錯誤した結果、うまれました。

美術の展覧会とは一体、为什么呢。上記の『モネ、ロダンの合同展』はそのヒントを与えてくれます。もちろん展覧会は見ると見る皆さんのものです。傑作の数々に感動していただければよいのです。しかし展覧会という場は、美術の歴史



クロード・モネ(1840-1926)『ポール＝ドモワの洞窟』  
1886年/油彩・カンヴァス、65×83 cm/  
茨城県近代美術館、モネ、ロダン 合同展(1889年)出品



を大きく書きかえる役目もし、『モネ、ロダン合同展』はそのよい例であったと思います。

オーギュスト・ロダン  
(1840-1917)  
『三つの影』  
1898年頃、ブロンズ/  
200×180×110 cm/  
茨城県近代美術館/  
モネ、ロダン合同展  
(1889年)には、小型の  
石膏像を出品(1980年、  
タイトルは『習作』)

2024年6月5日、会員41名がSOMPO美術館で「北欧の神秘 ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画」を、東京国立近代美術館で「TRIO パリ・東京・大阪モダンアート・コレクション」を鑑賞しました。

## モダンアートを愉しむ

牧 幸代



まだ6月の初めだというのに夏の日差しが強くなる予感のする朝、集合時間前に揃ったメンバーで一路、渋滞に巻き込まれることなく、東京新宿へと向かいました。

SOMPO美術館は、2020年7月に垂直と曲線を組み合わせた銀色の外観の近代的な建物で、前損保東郷青児美術館を継承して開館しました。新しくなって初めての訪問で楽しみにしていました。

北欧は近隣諸国、特にロシアに翻弄された後に独立したことや、白夜や溶けない大地の寒い国々などということしか知らなかったのですが、近代的なものを手に入れながら、神秘主義や民族伝承を捨てずに制作している画家が多かったことを知りました。日本では触れることの少ない北欧3国の自然や歴史、文化、北欧神話を、作品を通して見ることができました。特に、ノルウェーの画家エドヴァルド・ムンクの作品《フィヨルドの冬》と、《叫び》にも共通する雰囲気（ペランダにて）の2点を見られたのはよかったです。

お楽しみのランチは、都市センターホテル内の和食処梅林。永田町駅のそばにある落ち着いた雰囲気の場所での会食でした。皇居の周りを通り、東京国



SOMPO美術館前で、参加者全員写真（2024/6/5）

立近代美術館へは10分まで到着しました。

パリ・東京・大阪3都市の美術館のモダンアート・コレクションの中の共通点を持つ作品を各館ごとに1点を選びトリオ3点1組を展示する展覧会でした。それぞれの美術館のキュレーター達のモダンアートとは何かという問いに向き合いながらコレクションされた作品への強い思い入れと、それをどのような切り口で組み合わせるのかという試みを見ることができました。近代都市のアレゴリーというセクションでは好きな作家であるアユフィの《電気（精）》の縮小版画や、池田通邦の《戦後の大阪》と、画家の想像の中に存在する虚構と現実が浮遊する世界を表した作品が気になりました。

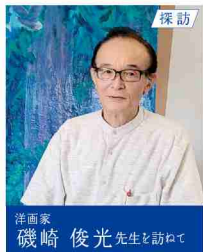
コレクション作品の一端を見せていただきながら、それぞれの美術館へまた行こうと思いました。（ひたちなか市在住）



ムンク「フィヨルドの冬」  
1915・油彩・カンヴァス・103×128cm / オスロ国立美術館



ムンク「ペランダにて」  
1902・油彩・カンヴァス86.5×115.5cm / オスロ国立美術館



探訪

洋画家

磯崎 俊光先生を訪ねて

## 神秘の森を描く

夏の初め、美術館からさほど遠くない住宅地に磯崎先生を訪ねた。ときわ目をひく瀟洒な建物が先生のご自宅、その2階にアトリエがある。

今回は会報委員全員集合、多勢の訪問にもかかわらず、奥様ともに温かく迎えて頂いた。先生は居間の大きなテーブルに資料を広げ、私達のどんな質問にも率直にユーモアをまじえながらお話ししてくださいました。

磯崎先生は茨城大学美術科を卒業後、森田茂氏に師事し、初めて指導を受けた時いただいた「絵は再現でなく、表現するものです」という言葉が先生の創作活動の原点となっている。東光展、日展に入選すると、次々と受賞を重ねていった。その間、高校の美術教師を続けながら様々なモチーフに挑戦していくことになる。

先生はこれまで人物を描くことで、精神世界の表現を試みてきた。僧侶を描きたい一心で、京都の寺で研修を重ねた。中に入ってみないとわからない事がある。剃髪で托鉢をし、お経を覚え得度をした。

次にアイヌの文化に着かれ、幾度も北海道に取材に通うことになる。興味本位だけではアイヌの人々は心を開いてはくれない。描くことも写真も許してもらえなかった。や

がて先生の情熱がアイヌの人々に通じ、それからは心を割った長い付き合い合いとなっていった。部落ごとに異なる文化があり、出会いが楽しい。アイヌへのリスペクトは芸術の表現へと昇華し、長老の威厳に満ちた姿を描いた作品は1991年日展で特選を受賞した。

それでも師事する森田茂氏は自由に描くようにと指導されたが、自分流の表現を見出せずに

もがいていたという。60歳までには自分の「創作世界」を確立したかったと、想いを語る。

「森」がその頃の先生のテーマであった。神々しく静かな自然林に常陸太田の東金砂神社の山でめぐり逢った。その神秘性を描き出したかった。さらに、アツサンのために訪れた神社の数は、全国で数百を超えた。深い森に分け入れれば、緑、蒼、碧、青、藍と樹々の陰に幾重にも色が重なる。自分にしか出来ない表現を求めて試行錯誤を繰り返した。2005年東光展で森田賞を、翌年には文科大臣賞を受賞した。

その後日展の審査員、評議員に就任。東光会副理事長も長年務め、昨年退任した。重責ある立場を離れ心身ともにやすらぎ、今は制作を愉しめるようになったという。

画家にとってアトリエは神聖な場と先生は言われる。その制作の現場も見せて頂いた。そこには深い森が広がっていた。そびえ立つ巨木の古い陰のむこうに、鳥の舞う突き抜けるような



「御山」  
2006年／油彩・カンヴァス／F130号／  
第72回東光展

空が見える。130号の大きなカンヴァスに描かれたその森からは、清らかな香りさえ感ずる。秋の日展に向けて制作中の宮司を描いた120号の大作「捧」も拝見した。

天井の高い広々としたアトリエには、様々な民族衣装のコレクションが飾られ、先生の制作に対する矜持を書き留めたものが壁に架けられていた。それは芸術を探究する者にとって、いくつかの大切な言葉で表そう。これだけの業績を重ねてもなお、描くことに真摯にむかい続けている。今は描くだけでなく、文章で表現することに挑戦しているそう。先生の目の輝きが若々しいはずである。

もう一度大きな森を見上げた。  
(会報委員会)



「思い」  
2007年／油彩・カンヴァス  
F120号／第39回日展



「捧」  
2022年／油彩・カンヴァス  
F120号／第9回日展

いさぎよさ としむつ  
磯崎 俊光

J. Iwaki

- 1942 いたらななかりに生まれる
- 1945 茨城大学美術科卒業、(38)筑波大学芸術学部卒業
- 森田 茂氏 (日本芸術院会員、文化勲章受賞)に師事
- ※31回東光展に初入展
- 1966 第9回日展に初入展
- 1973 第38回東光展にて会員賞、特別賞
- 1991 第29回日展にて特選(第26回員も)

- 1992 第36回文化庁現代美術展特別展に出品
- シリアパラスメテハハル、イン・ボストン展で観賞
- 1998 第30回日展審査員に就任(第30、40回、改選)
- 第3、6、9回員も
- 2003 茨城県現代美術協会の表彰
- 2005 第71回東光展にて森田賞
- 2006 第71回東光展にて文部科学大臣賞  
経産大臣賞に作品展示
- 2011 日展評議員となる
- 茨城県評議員表彰
- 2012 (一社)文化芸術推進委員となる
- 2019 地域文化功労者文部科学大臣表彰(茨城府民会報)
- 2023 (一社)東光会副理事長を退任する(第80歳)
- 2024 茨城県美術展覧会副会長を退任する(第81歳)
- 現在 (公社)日展特別会員  
住所 水戸市

青木 啓子



私が絵手紙に出会ったのは、30数年前の夏の終わりでした。子供の幼稚園時代に知り合った今というママ友からの1通の残暑お見舞い状です。ハガキの裏面いっぱいに描かれた大きなカボチャ。淡い黄色系の色に染められ、わずかな余白には「どこまで大きくなるの」の言葉が添えられており、当時育ち盛りの息子がすぐに頭に浮かび、ドンビシャの文言に感動。早速、現在も所属する「水戸絵てがみの会」に入会しました。

絵手紙とは、ハガキに絵を描いて短い言葉を添えた手紙のことで。モチーフは何でもよく、四季折々の草花、果物、野菜などが好

まれていきます。俳画、水墨画などは異なる表現の仕方で自分流の文字を入れるのも特徴です。

絵手紙の創始者小池邦夫氏の言葉に「ヘタでいいヘタがいい」があります。この言葉は学んでいる人には説得力のある魔法の力があり、これから始める人には気持ちの軽くなる優しいことばなのです。

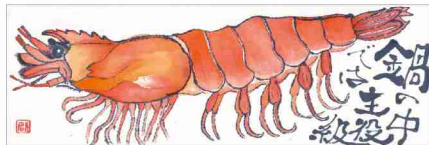
絵手紙は、基本的には実物を見てかきます。硯で青墨を磨り、穂先の長い筆の上部を軽く持ちゆつくりと動かし、モチーフの特徴を見つけ細部からかき出し、ハガキからはみ出すぐらいに大きく伸び伸びとかきます。ハガキは墨の濃淡が美しく出る画仙紙を使用、彩色に

は一色でも水加減によって多彩な色合いが出せる顔彩を使います。色付けのコツはタッチと勢いで、「タッタッタ」と手早く彩色。添える言葉は、自分が感じたことや、伝えたい気持ちを飾らずに素直に表現します。

「かきたい」と思ったら、気持ちが熱いうちにハガキの前へ。下書きなしのぶつけ本番でドキドキしながら多少形が崩れようと墨がにじもうと、自分らしさが出ていればいいのです。絵手紙に失敗はありません。世界でたった1枚の絵手紙をかいてみましょう。かいたら必ずポストインを。1枚のハガキからたくさんのお会いと笑顔が広がります。

筆墨文化として海外にも紹介されている絵手紙。手がきが少なくなっている時代だからこそ、これからも、新春のご挨拶の年賀状を始め、季節のお便りを、身近な友人、家族そして全国の絵手紙を愛する仲間を送り続けたいと思います。

(水戸市在住)



顔彩・画仙紙 / 大判画仙紙



顔彩・画仙紙 / はがきサイズ



顔彩・画仙紙 / はがきサイズ



顔彩・画仙紙 / はがきサイズ



学芸員  
乾健一さん

大阪出身39才、2019年に茨城県近代美術館に赴任、自転車通勤15分というフレッシュな学芸員さん。大学で理系の学問を修め民間企業で働くも、一念発起して大学院で美術史を学び学芸員になったという異色の経歴の持ち主である。

☆遠回りをして美術に携わる道へ

恐竜の研究者になりたいという夢を持っていた少年は、長じて生命の神秘を解き明かしたいという思いから、大学では生物学を専攻し修士課程を修了。が、生きている間に夢を実現するのは無理であろうと思ひ至り、修了後はエアコン部品メーカーに就職した。研究開発に携わり、職場は夜遅くまでの勤務が多く、全く余裕のない毎日だった。「自分の生涯の仕事としては何か違うな」という気持ちが芽生えてきたとき、心に浮かんだのは長く温めてきた美術への思いだった。

15才の頃、家族で見た展覧会（フェルメール展、若冲展）が印象に残っている。中学ではソフトテニス部。高校・大学では美術部に所属、油絵などに取り組んだ。初めに好きになった画家はゴッホや佐伯祐三だった。

高校生の時、より新しい時代の表現へと目が向くようになった。そのきっかけは美術部でのこと。先輩の描いたブロックや具体を思わせる抽象画が、埃をかぶった状態で美術室の片隅に置かれていた。その作品を展覧会に出すため、先生が濡れた雑巾で画面を拭くと作品の色彩が鮮やかに蘇った。その様子



キース・ヘリング  
「スウィート・サタデー・ナイト」のための舞台セット  
1985年・中村キース・ヘリング美術館蔵  
Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation

を見て強い衝撃が走る。「美術って自由なんだ、何をやってもいいんだ!」と。やがて美術館やギャラリーへ自ら足を運ぶようになり、関心の範囲は戦後美術から現代美術へと広がっていった。



キース・ヘリング  
（アイコン）  
1990年・中村キース・ヘリング美術館蔵  
Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation

最初の大学時代には、大阪の画廊でインターン勤務も経験。しかし最先端の表現の現場を目の当たりにすることで、かえって現代美術における未知の表現の可能性の枯渇と限界を感じるようになり、それ以上の道を追究することはなかった。

会社勤めの日々のなか今後の人生に思案を巡らせていた20代後半、もともと好きだった美術の道に進もうと改めて決意。4年間働いた部品メーカーを30才のときに退職した。大阪大学の大学院に入り、自らを育んだ大阪を中心とする美術を歴史的観点から検証することに焦点を定め、研究の手簿だった泉茂（1922-95）をテーマに修士論文を執筆した。泉は「アモクラート美術家協会」を結成し、関西の戦後美術を牽引した画家である。修士課程を修了し博士課程を1年終えたところで、当館に学芸員として任用された。

☆企画展「キース・ヘリング展 アートをストリートへ」

（2025年2月1日～4月6日）を担当

山梨県北杜市小瀬沢にある「中村キース・ヘリング美術館」は、300点以上のヘリング作品を所蔵する世界で唯一のキース・ヘリング（1958-90）の美術館である。今回の企画展は、この美術館の所蔵品を中心にしつつ、日本初公開作品を含む約150点を展示する。1980年代ニューヨークを代表するアーティストであるキース・ヘリング。動物や人間といったモチーフを極限までシンプル化した作品は誰が見てもわかりやすい。ぜひ会場に足を運んで、作品に込められたヘリングの想いもくみ取りながら楽しんでいただきたいとおっしゃる。

☆今後は

ご自身の好きな道を選んで充実した日々を送られている乾さん。いつか、実現できればと思っているのは、茨城に関係のある二人の企画展である。

- ・巖塚…虹色のスペクトルによる作品で有名
- ・吉村順三…茨城県近代美術館の建築の設計者

この企画展の実現が楽しみである。乾さんの今後ますますのご活躍を期待したい。（会報委員会）

## 2024年度 理事会・代議員会報告

2024年5月11日(土)に理事会・代議員会が開催されました。中川会長の挨拶に続いて金澤宏副館長の挨拶と中村彝展に係るクラウドファンディングの説明がありました。また、新任課長として井野功一美術課長の紹介と挨拶がありました。

理事会では、2024年度役員案と2023年決算が承認されました。代議員会では、2023年度経過報告、事業報告、決算報告、監査報告に続いて、2024年度事業計画案と予算案について協議が行われ、いずれも承認されました。

2024年度事業計画において、企画委員会では新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、コロナ禍前の活動に戻す方針で行事を計画します。ギャラリートークを再開するとともに、海外美術鑑賞旅行や宿泊を伴う国内美術鑑賞旅行についても計画をします。また、講演会や美術講習会なども計画を進めます。会報委員会では例年同様、会報「遊美」を年3回発行いたします。PR委員会ではホームページを随時更新するとともに、友の会イベント時の新規会員獲得方法について検討します。また、近代美術館、天心記念五浦美術館の友の会コーナーの更新を行います。

2024年度も会員の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

(会報委員会)



2024年度代議員会 県美術館会議室

### 2024年度役員・委員の紹介

役職	氏名
顧問	鈴木晋志男
会長	中川 純一
副会長	滝田 賢三 田山 興城 奥村 雅子
事務局次長	沼田祐一郎
監事	小林 正和 坂場 英利
理事	阿部 真也 石井 孝 車 孝則 小松 満 鈴木 尚 高原 裕 長瀬 家光 沼田祐一郎 藤田 卓也 横須賀正留
代議員	荒川眞理子 菊地 清浩 五嶋 英門 齋藤 奎二 佐伯 佳子 砂押喜美江 富永 薫 灰原 啓子 牧 幸代 松本 寛子 宮田 幸江 柳生 順子 山田 一二 山本美喜男
企画委員会 委員長	滝田 賢三
委員	鈴木 尚 佐伯 佳子 富永 薫 牧 幸代 宮田 幸江
会報委員会 委員長	奥村 雅子
委員	荒川眞理子 灰原 啓子 松本 寛子 柳生 順子 山田 一二
PR委員会 委員長	沼田祐一郎
委員	富永 薫 宮田 幸江 柳生 順子 山田 一二

### 2024年度法人・特別会員紹介(敬称略・順不同)

中川ヒューマン管工業株式会社	神橋瑠璃有限会社
仁岸 忠孝	株式会社 光和印刷
和知商事株式会社	東神電池工業株式会社
日東電気株式会社	国際警備保障株式会社
大朝寺内 持	茨城県信用組合
茨城県信用農業協同組合連合会	(株)横濱貴夫建築設計事務所
第一熱学建設株式会社	(株)入江川工業所
茨城グローバルシップ株式会社	(株)イチハワ商会
富士コンクリート工業(株)	株式会社 サゾーヒー
日産部品茨城販売株式会社	美容室 マドンナ有)
吉成 安史	(株)唯達建築設計事務所
茨城トヨタ自動車株式会社	日車メンテナンス株式会社
JA茨城県中央会	ベニヤ商事株式会社
(株)吉田石油	昭和建設株式会社
東都計装株式会社	開彰商事株式会社
(株)常陽銀行	五浦日本美術展覧会天心偉蹟顕彰会
学校法人 中川学園	水戸ヤクルト販売株式会社
株式会社 白英社	戸田産業株式会社
茨城キリスト教学園	医療法人 麗光会 小松整形外科医療
車 孝則	株式会社 ブックエース
株式会社 フジタビジネスマシンス	JA水戸
(株) ヤマト建築設計事務所	(株)IHIS 大洗ホテル・思い出浪風館
株式会社 ジュエリー小林	(株)五浦観光ホテル

注：掲載を了承された会員のみ掲載

2024年5月11日現在

## 会員のためのギャラリートーク「石岡瑛子Iデザイン」展

2024年4月27日～7月7日

着地は熱情であらねばいけな

寺門 正倫



NEW MUSIC MEDIA  
[NEW MUSIC MEDIA]  
音楽祭ポスター/1974年

石岡瑛子の名前を知ったのは中学生の頃だったかな。写真少年だったわたしは「アサヒカメラ」で連載されていた記事でその名を知ったのです。当時はアートディレクターという仕事がどんなものかわからなかったな。高校時代にはバルコの広告キャンペーンをやっていたのが記憶に残っています。当時とても斬新なコママーシャルでした。

「裸を見るな。裸になれ。」のコピーはよく覚えています。ですが、これらの広告を作ったのが石岡瑛子という人だったのは当時は知りませんでした。

そういうわけで今回の「石岡瑛子Iデザイン」展はとても興味深く拝見しました。ギャラリートーク

に参加することで様々なバックグラウンドを知ることができ感謝しています。それにしても海苔の缶や教科書の表紙のデザインまで手がけているとは…驚きです。でも一番に残ったのは、元原稿が読めないくらいに朱が入ったグラデでした。才能だけでなく、執念というかしつこさが必要なんですね。

わたしが選んだ作品は「NEW MUSIC MEDIA」のポスターです。昨日の夜、桃を食べたところですが、何も関係はありません。好きな作品です。

(千葉県在住)



講師の津波浩所序五員(後列左から4人目)と  
参加会員(筆者は後列右から2人目) (2024/5/30)

講習会に参加して

永田 ます子

コロナ以前の講習のつもりで参加した。石膏像(メダイチ)の他に本や陶器、植物やカバンなど描かなければいけない。講師の伊藤珠子先生(陶芸作家)曰く、デッサンは料理と同じで、食材を見てどんな料理にするか考えるように、モチーフを見てどんな絵を描こうかと想像するようになります。そうだと今迄肉じゃがしかできなかったマンネリから脱して酢豚もできるように。早い段階で顔の大きさ等バランスの指摘。木炭、ネリゴム、ガーゼなど渡されたけど、ネリゴムは使ってはいけないと先生は優しく仰る。画面はどんどん黒くなっていく。ガーゼでこすってみると平面的になるので、メリハリをつけたいがネリゴムはダメ。3日目の最後の1時間は講評会。ほとんどの人が2枚描き上げた。私はといえば1枚で精一杯。試行錯誤したデッサンを家に帰って額に入れてみたら、不思議何故か私なりに完成した気になった。とても充実した3日間でした。ありがとうございました。

(ひたちなか市在住)



デッサン講習会風景 県美術観望室(2024/5/14)

<お知らせ>

友の会の今後の行事等について

企画委員会

- ◇2024年度の海外美術鑑賞旅行として「ポルトガルの美と世界遺産を巡る旅-8日間」を計画いたしました。今回の鑑賞旅行では、国立古美術館やガルベキアン美術館、世界遺産の修道院、ポルトヤリスボンなどの歴史地区を巡ります。また、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラも訪れます。募集案内書は11月初めに送付いたします。
- ◇大原美術館 三浦篤館長の講演会を12月7日(土)に近代美術館と共催で開催いたします。詳細につきましては、中村典展のイベントチラシをご参照ください。
- ◇吉田首席学芸員による「中村 典展」会員のためのギャラリートークが、12月10日(火)行われます(チラシ同封)。
- ◇尾崎正明前近代美術館長の講習会を来年2月に近代美術館と共催で開催を予定しています。詳細が決まり次第お知らせいたします。
- ◇第2回デッサン講習会を1月23日(木)～25日(土)の3日間で実施いたします。11月初めに募集案内を送付いたしますので、奮ってご参加ください。



バターリャ修道院(バターリャ)

友の会では他にも様々な行事やイベントを計画しておりますので、多くの会員がご参加くださいますようお願いいたします。

あとがき

- 荒屋鋪透氏が新館長に就任なさった。ご専門は近代西洋美術など。没後100年記念中村典展が開催されるが、新館長は中村典展には特別の思い入れをお持ちと美術館HPで拝見した。典展を始め、これから美術館に起こることが楽しみにある。
- 8月に当館の「つくる展」を見た。夏休みの親子連れで賑わっていた。1階には紙コップで自由に街を作れる広いスペースと塗り絵ができるテーブルがあり、人気だった。隣には絵本・積み木もあり、子供たちが美術館を楽しんでいる様子

が嬉しかった。「かいけつゾロリ大冒険展」が開催された天心記念美術館でも子供たちが楽しい時間を過ごしていた。

- 本号で使用した画像に関して、下記の方々にご協力いただきました。厚くお礼申し上げます。
  - ・2頁の掲載2作品のデータを、中田企画課長からいただきました。
  - ・3頁のムク2作品画像データを、オスロ国立美術館 Web ページ (<https://www.nasjonalmuseet.no/en/collection/>) から無償で取得しました。
  - ・6頁のキース・ヘリング作品2点の掲載許可および画像データを、

乾学委員に取得していただきました。

- ・7頁の「石岡 瑛子「デザイン展」の画像データを、澤渡首席学芸員からいただきました。

茨城県近代美術館 友の会会報  
游美 No.107

発行 2024(令和6)年9月  
編集・発行 茨城県近代美術館友の会  
〒310-0851  
水戸市千波町東久保 666-1  
TEL.029-243-5111  
E-mail : fmomaibk@gmail.com  
HP : <https://fmoma.com/>

印刷 株式会社 光和印刷